

# 第89回 医学教育セミナーとワークショップ in 愛知医科大学

2024年10月26日(土)

参加登録期間 2024年9月2日(月)～19日(木) [事前登録制]

seminar

12:30-13:30

ランチオンセミナー ML

医学部におけるアントレプレナーシップ教育

池野文昭(スタンフォード大学)

workshop

9:00-12:00

WS-1 ML

医師や多職種と診療看護師(NP)が協働するための組織づくり

森 一直・高林拓也・奥村将年(愛知医科大学病院)黒澤昌洋(愛知医科大学)阿部恵子(金城学院大学)  
久保田伊代・平井克城(岐阜大学)

WS-2 CD

医療者の職種間コミュニケーションを育む卒後教育

高橋美裕希(岐阜大学)奥村将年・高林拓也・早稲田勝久(愛知医科大学)田原卓矢(昭和大学)吉澤悠喜  
(赤穂中央病院)藤江里衣子(藤田医科大学)川上ちひろ(MEDC)

WS-3 A

カリキュラムの評価について各大学のIR事例を用いて議論しよう

—第7回医療系IR友の会実践会—

佐藤麻紀・谷口千枝(愛知医科大学)浅田義和(自治医科大学)岡田聡志(千葉大学)柿崎真沙子・恒川幸司  
(名古屋市立大学)椎橋実智男(埼玉医科大学)中村真理子(東京慈恵会医科大学)濱崎景子(長崎大学)

WS-4 TL

医療系大学におけるアントレプレナーシップ教育について考えよう

中村和正・齊藤岳児・成瀬愛子・荒牧修平(浜松医科大学)

workshop

14:00-17:00

WS-5 ML

専門家ではないからこそできる「安全な医療」の本質観取

奥村将年・山本恵美子・坂田久美子・河合聖子・森下啓明(愛知医科大学)川原千香子(昭和大学)

WS-6 TL

学習者のやる気を引出すco-creation(共創)のすすめ

山口佳子(東京医科大学)高橋 慶(川口診療所)高橋美裕希(岐阜大学)

WS-7 TL

医療者教育での脱出ゲーム活用方略:事例を元にした設計・改善

浅田義和(自治医科大学/愛知医科大学)村岡千種(藤田医科大学)黒澤昌洋・篠田かおる・青山恵美(愛知医科大学)

WS-8 TL

絵心不要!マンガ制作で体験するグラフィック・メディスン

佐野 樹(名古屋大学/三重県立こころの医療センター)麻田奈緒・澤井あゆ美・矢崎太郎(三重県立こころの医療センター)末吉佳菜子(三重県障害者相談支援センター)蔡宗芸(林口長庚記念医院)

\* 記号(TL等)は、アソシエイト認定のための学習領域を表しています

第90回  
岐阜(Web)  
2025/1/23-24

第91回  
東京  
第26回教務事務職員研修  
2025/5/29-31

第92回  
鹿児島大  
2025/11/27-28



## 医学部におけるアントレプレナーシップ教育

池野文昭 (スタンフォード大学)

概要： 新しいイノベティブな医療機器が創出されるシリコンバレーには、医療機器スタートアップのエコシステムが存在する。そして、その中心には、人材を輩出するスタンフォード大学が存在し、エコシステムの非常に重要な役割を果たしている。特に、教育という切り口で、いかに、社会に役立つ商品を開発していくかという一見、大学ではなく、企業がやるべき教育を大学が担っていることに違和感を感じるかもしれないが、米国において、大学の存在意義は、研究、教育、医療（医学部の場合）であり、特に社会に必要とされる人材を育てる教育に重点を置かれている。その意味で、医療関連ビジネスの創出ができる次世代のリーダーを育てることは、社会にとって非常に重要なことであり、特に医療関連は、世界中の患者を救うことができる商品を開発していくことに繋がり、人類に貢献することができる。今回、スタンフォード大学における医療機器ビジネスの起業家精神育成講座であるStanford Biodesign Programを紹介する。

アソシエイトポイント：ML 0.125

WS-1 10月26日(土) 9:00-12:00

## 医師や多職種と診療看護師(NP)が協働するための組織づくり

森 一直・高林拓也・奥村将年 (愛知医科大学病院) 黒澤昌洋 (愛知医科大学) 阿部恵子 (金城学院大学) 久保田伊代・平井克城 (岐阜大学)

概要： 我が国の医療は超高齢化社会と医療の高度化、医師の働き方改革などにより看護師だけでなく、さまざまな医療者へのタスクシフトが進んでいる。諸外国においても看護師の役割拡大が進み、米国では1965年に診断能力があり、患者の健康増進と治療を提供するNurse Practitioner制度が始まった。日本では、2008年にNurse Practitionerの教育を始め、日本NP教育大学院協議会の教育プログラムを修了した看護師を、診療看護師 (NP) と呼称している。日本では資格制度ではなく認定制度であり、診断や治療を行うことは認められていない。しかしながら、臨床推論を行いながらの疾病管理と予防、健康増進と特定行為を活用した診療の補助業務を行うことにより、諸外国のNurse Practitionerの能力を発揮できるのではないかと考える。診療看護師 (NP) を雇用する病院は少しずつ増加しているものの、組織として積極的に活用している施設は少ない。そのため、本ワークショップでは、医師や多職種と診療看護師 (NP) が協働するための組織づくりについて考えていきたい。

対象： 診療看護師 (NP) に関心がある医師・看護師、多職種、教育関係者

定員：20名

アソシエイトポイント：ML 0.25

WS-2 10月26日(土) 9:00-12:00

## 医療者の職種間コミュニケーションを育む卒後教育

高橋美裕希 (岐阜大学) 奥村将年・高林拓也・早稲田勝久 (愛知医科大学) 田原卓矢 (昭和大学) 吉澤悠喜 (赤穂中央病院) 藤江里衣子 (藤田医科大学) 川上ちひろ (MEDC)

概要： 21世紀の医療者教育には、すべての医療専門職に「複雑化した医療システムに基づいた教育改革」が求められており、「チームワーク」や「コミュニケーション」がとくに重視されています。現場での職種間コミュニケーション不足によって発生するインシデントが多いことは報告されていますが、対策としては「コミュニケーションを改善せよ」という一般的な助言の提供にとどまることが多い現状です。様々な職種が集う現場という複雑な「学びの共同体」の中で医療者が職種間コミュニケーションをどのように学んでいるのかを共有し、職種間コミュニケーション能力を涵養させるための学習目標を設定することで、職種横断的な教育カリキュラム作成に向けた土壌をつくっていきませんか。

対象： 医療者教育に関心のある方

定員：25名

アソシエイトポイント：CD 0.25

WS-3 10月26日(土) 9:00-12:00

## カリキュラムの評価について各大学のIR事例を用いて議論しよう

—第7回医療系IR友の会実践会—

佐藤麻紀・谷口千枝（愛知医科大学） 浅田義和（自治医科大学） 岡田聡志（千葉大学） 柿崎真沙子・恒川幸司（名古屋  
市立大学） 椎橋実智男（埼玉医科大学） 中村真理子（東京慈恵会医科大学） 濱崎景子（長崎大学）

概要： 近年、各大学医学部にIR組織が設置されてきた。しかしながら、医療系の学部IRでは、機関別IRとは異なった医療系独自のデータが必要になるなど、特有の課題がある。タスクラの世話人は、2018年に「医療系IR友の会」を立ち上げ、情報交換の場を設けてきた。新たな情報交換の場として、現在までに6回にわたる医療系IR友の会実践会を開催し、各大学のIR事例等を共有している。今回、第7回医療系IR友の会実践会として、カリキュラム評価について取り上げたい。前半では、カリキュラム全体を評価するうえで必要とされるデータは何か、各大学の事例を共有し、議論したい。後半では、①資質・能力（プロフェッショナルリズム）の評価、②臨床実習の評価、③科目の評価について、ワールドカフェ形式で各大学の事例を共有することで、カリキュラム評価について議論したいと考える。

対象： 医療系大学の医療者教育系分野でIRを担当している方、またIRに関心のある方

定員：25名

アソシエイトポイント：A 0.25

WS-4 10月26日(土) 9:00-12:00

## 医療系大学におけるアントレプレナーシップ教育について考えよう

中村和正・齊藤岳児・成瀬愛子・荒牧修平（浜松医科大学）

概要： アントレプレナーシップは、日本語では「起業家精神」と訳され、近年大学教育においてもアントレプレナーシップ教育の重要性が認識されるようになってきています。一方、医療系学部では、膨大な量の医学知識を覚え、最終的に国家試験を受験しなければなりません。卒後はほとんどの場合、医療人として臨床現場で研修を積んで専門性を身につけていくというコースが定まっています。そのような医療系学部において、はたしてアントレプレナーシップ教育は必要なのでしょうか？我々は、医学単科大学としてアントレプレナーシップ教育を開始しました。その試みを紹介すると共に、参加の皆様と議論させていただき、これからの医療者教育におけるアントレプレナーシップ教育のあり方について考えていきたいと思います。

対象： 医療専門職の卒前・卒後教育に関わる方（職種は問いません）

定員：20名

アソシエイトポイント：TL 0.25

WS-5 10月26日(土) 14:00-17:00

## 専門家ではないからこそできる「安全な医療」の本質観取

奥村将年・山本恵美子・坂田久美子・河合聖子・森下啓明（愛知医科大学） 川原千香子（昭和大学）

概要： 「プロの医療者に成長してほしい」という願いとともに「安全な医療者になってほしい」という願いを持って、学生教育をしていると思います。しかし、あなたが医療安全を専門としていない医療者だとしたら、医療安全を教えることについて多少なりとも困難を感じているのではないのでしょうか。それは、医療安全教育に学術的な専門知識や医療安全業務の経験が必要だと認識しているからなのかもしれません。そのような堅い医療安全教育は専門家にお任せして、非専門家でもできる医療安全教育を始めてみませんか？

本ワークショップでは「安全な医療」についての本質観取をおこない、医療安全の奥底の奥底にある本質を探し出していただきます。さらに、レクチャーで非専門家でも伝えることができる安全教育のtipsを提供します。ワークショップ後は、きっと今までとは異なる視点の医療安全教育をイメージできるようになるでしょう。

対象： 医療安全について立ち止まって考えてみたい医療者

定員：20名

アソシエイトポイント：ML 0.25

WS-6 10月26日(土) 14:00-17:00

## 学習者のやる気を引出すco-creation(共創)のすすめ

山口佳子（東京医科大学） 高橋 慶（川口診療所） 高橋美裕希（岐阜大学）

概要： 学生実習や卒後研修はカリキュラムに沿ってやってはいるものの、もう少し学習者のやる気を引出し、学習者・教育者双方にとって実りある実習や研修にできないだろうか？実習・研修担当教員が一度は考えたことがあるテーマと思います。Co-creation（共創）は、教育や学習の改善における「学習者と教育者の密接な協働」であり、「学習者の価値観を歓迎し、教育（デザイン）のプロセスに学習者が積極的に関与すること」と定義されています。Co-creationでは教育に関わる課題の多くを教育者、学習者、利害関係者との創造的な対話によって、学習者の動機付けと共により良い形で解決されることを目指します。今回は、卒前・卒後教育（個人レベル・組織レベル）の実践事例をご紹介しますながら、皆様の各施設での取組みに活かせるco-creationを考える機会にしたいと思います。

対象： 卒前の学生実習・卒後研修に関わる教員の方（職種は問いません）

定員：24名

アソシエイトポイント：TL 0.25

## 医療者教育での脱出ゲーム活用方略:事例を元にした設計・改善

浅田義和 (自治医科大学/愛知医科大学) 村岡千種 (藤田医科大学) 黒澤昌洋・篠田かおる・青山恵美 (愛知医科大学)

概要： 脱出ゲーム (Escape Room、以下ER) を利用した教育は、知識や技能・態度の教育に活用可能な方略として、国内外で複数の実践事例や教育効果に関するレビューなどが報告されている。一方、ER自体の設計・開発や運営の困難さは課題となる。この対策として、教材のテンプレート化や運営マニュアルの作成などが考えられる。本WSでは、(1)簡易版の教育用ERを参加者が体験した後、(2)その内容を一部編集して独自の教材を作り上げるワークを行う。また、(3)自施設内の運用にあたり、必要な準備や運用手順を整理したマニュアルについて、サンプルを元に作成する時間を設ける。本WSが、ERを用いた教育実践を展開する一助になれば幸いである。なお、近年では対面で行うERとオンラインで行うERとが存在しているが、本WSでは対面でのERを中心に、一部でオンラインの課題を取り入れた、ハイブリッド形式のERを主として扱う。

対象： 脱出ゲームを活用した教育を取り入れたいと考えている教育者

定員：30名

アソシエイトポイント：TL 0.25

## 絵心不要！マンガ制作で体験するグラフィック・メディスン

佐野 樹 (名古屋大学/三重県立こころの医療センター) 麻田奈緒・澤井あゆ美・矢崎太郎 (三重県立こころの医療センター) 末吉佳菜子 (三重県障害者相談支援センター) 蔡宗芸 (林口長庚記念医院)

概要： グラフィック・メディスン (GM) とは、マンガを医療に用いること、あるいはそれを理論的、実践的に探索することを指す用語である。GMは患者が病気の体験を振り返るために、あるいは他の患者のために創作されてきた。そして近年、学生を含む医療関係者が自分の仕事や研修 (実習) を内省する目的でGMを創作する試みがなされている。GMには多くの教育的、臨床的メリットがあり、たとえば医療関係者のナラティブ・コンピテンス (聞いたり読んだりした物語を認識し、吸収し、解釈し、感動するために必要な一連のスキル) や共感を育む。また、描かれるマンガは非常に主観的なものであるため、学習者の不満の原因は何か、それが医学教育にとって何を意味するのかについて、教育者に深い洞察を与える可能性がある。本ワークショップでは、絵心不要のマンガ制作プログラムを通して、誰にでも手軽にマンガを描いてもらい、医療者教育におけるGMの可能性について探る。

対象： 大学教員、保健医療福祉専門職、学生

定員：16名

アソシエイトポイント：TL 0.25



# 参加登録方法

MEDCホームページよりお申込みください  
「MEDC」で簡単検索できます

**参加登録期間: 2024年9月2日(月)~19日(木)**

参加を希望される方は、上記期間内に参加登録をお願いします。  
各企画には定員を設けています。申込順にて受付いたしますので、ご了承ください。  
なお、当日参加は受付いたしません。

**参加費: 2,000円**

(学部学生、東海国立大学機構および愛知医科大学の教職員・大学院生 無料)

**会場: 愛知医科大学 1号館(大学本館)**

(〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1-1)

